

## On Line 内定者説明会開催に当たっての挨拶

代表取締役社長 石和田 雄二

### <入社内定、おめでとうございます。>

アイヴィスへの入社内定、おめでとう。

新型コロナの感染拡大第三波の渦中、今年はOn-Line説明会になりました。

12月25日、改めてOn Lineでお互いが知り合う場を作ります。

今日は、入社手続きなどの説明会の後、

当社の技術紹介を兼ねたアトラクションを用意しました。

多少時間が長くなりますが、各自適当な休憩を取りつつ、楽しんで下さい。

### <コロナ後は、新たな時代の始まりとなる。>

パンデミック以前から、世界にはいろいろな課題がありました。

それが今、世界を席卷する新型コロナが、

時代を加速度的に進め、課題を選別しつつ課題解決を迫る。

環境規制とESG投資によるカーボンニュートラルと脱ガソリン車への流れ、

自動化と行政のデジタル化、遠隔診療、遠隔授業、テレワークの浸透、

働き方革命と連動した東京一極集中から地方への分散

戦後と同様、大事変の後には必ず新時代への胎動が始まる。

元々課題先進国であった日本は、社会・産業構造が大きく変わり、

過去より未来、新たな時代と共に経済・産業・企業の再出発の時となる。

### <技術革新期の渦中にあるITサービスも新時代を迎える。>

AI、IOT、ビッグデータなど、数年前の先端技術のブームは、

一山越えた感があるが、応用面ではPOCを経て選別的に実用化が進む。

AZURE、AWS、GCPなどのパブリック・クラウドが本格的に普及したことと、

FPGAなどエッジ・コンピューティング技術の進展、それと5Gにより、

各種のIOTによるデータ収集とAIツールによるビッグデータ分析、

特徴量抽出などがエンドユーザー中心に急速に広がる。

検査、認識、制御、そして機器の開発など現実世界での応用が始まっている。

また、企業の縦割り、業務別システムの弊害を超え、

クラウドを活用した新たなプラットフォーム作りが始まって行く。

これに連動したデジタルデータの全社的活用であるDXが企業で進む。

DX (Digital Transformation) はコロナ後に時宜を迎え一気に加速する。

先端技術と最新基盤環境の上で、最新データ活用の企業SIが次々と動く。

### <IT サービス業界に於ける当社のアドバンテージ >

IT サービスの需要は今、水面下で急増し、ポストコロナで一気に花が開く。現状維持を優先せざるを得ないコロナ禍の環境は、先進的な顧客が旧業態に危機感を募らせているにも関わらず、従来の IT サービス業界の体制側にいる大手は、体質転換を先送りする。当社は、既に 60 人規模の先進技術部隊がいるが、この要員を増やしつつ、NTT データの技術開発本部と業務提携を結び、先進技術の開発で連携、トヨタとは、現場課題の解決に向け実戦開発を推進している。当社伝統の先進技術 SLAM は JAXA や防衛省で更なる応用力を磨いているし、最新基盤技術力に関しても外部専門企業と連携、人材が育ちつつある。設計製造、流通小売り、顧客向け SI サービスでは他社に負けない。超一流の当社顧客と平均年齢 34 歳を維持する多様な若手技術者増の厚み、その上での、新卒 83 名の適応性高く優秀な素材である皆さんの存在だ。現段階で、同業他社や一部大手に比べても一歩先に抜け出しており、来るべき IT サービス急成長時代には、現場現実に学び一段と成長する筈だ

### <時代を拓くのは新興勢力の構想力と若い力 >

既存の超大手 IT ベンダーは、資金もあり、人材もいて研究投資もしている。彼らが新時代の扉を開けるのだが、超大手ベンダーは、旧体制の支配者でもあり、慣性力がブレーキになって、全体ではそう早くは進めない。大手ベンダーとその下請けは、旧体制にドブプリ浸かって動きが遅い。次の時代の準備をしている中堅企業と若者こそが新しい時代を拓いて行く。

### <仲間と共に、日本と当社の新しい未来を拓いて行こう。>

当社はリーマンショック後の 10 年、意図的に院卒若手を採用して来た。2015 年、画像処理中心に進めて来た先進技術開発部門を改組、AI や IOT、ビッグデータ、音声会話を担当する部隊を作り、同時に本格的に大学院中心の新卒を採用、16 年 45 名、17 年 43 名、18 年 36 名、19 年 62 名、20 年 61 名、来年には皆さん 83 名が入社する。社歴 32 年、社員 550 名の半数以上はこの 10 年間に入社した若者たちだ。主要顧客はトヨタ自動車、NTT データ、IHI、日本ユニシスなどに加え、官庁系研究機関と取引があり、名大、阪大などとの共同研究の実績もある。コロナ後の来期には、環境とデジタル軸に日本の新たな成長期が始まる。日本と当社の新しい未来を、先輩や同期の仲間たちと共に拓いて行こう。